

一番の感動は教会堂での INTERRELIGIOUS SERVICE でした。

8月29日バーゼル大学の近く、PREDIGER CHERCH で行われた、多宗教による礼拝に感動しました。Bahauallah(ペルシャの貴族出身)がはじめた Bahai 教、トルコに信者が多い Alevitism (この2つは私の知らない宗教です)、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教、ヒンズー教が一堂に集って、核兵器のない世界を願って祈りました。高いドームの天井にステンドグラス。バッハを歌う合唱団の歌声と、パイプオルガンの演奏がひびき、それぞれの宗教者が祈る静かな時間。私も *Dona nobis pacem* をうたい、Commitment を唱和して心がなごみ、一体感に浸りました。

宗教、伝統、哲学の違いを超えてここに集り、核兵器のない世界、搾取、暴虐、支配、退廃、憎しみ、不信、偏見、あらゆる暴力のない世界という夢を実現する為に、それぞれにできる方法で行動しよう。さあみなさんご一緒に。

2002年のワシントン IPPNW 世界大会は前年の9.11の影がこく、レセプションで同席したイラン出身の女性は、とても緊張する日々を送っていると話しておられました。その後のイラク、アフガニスタン戦争の現状を見ると、今回の INTERRELIGIOUS SERVICE はとても良い企画だったと思います。九州ほどの大きさと、イタリア、フランス、ドイツ、オーストリアに囲まれ、永世中立国で第2次世界大戦でも戦火をほぼ免れた国、移民を受け入れている国、「スイスの誇り」を感じました。

2010. 9. 14 山上佳代子